		システム 今和4 年度		事務	事業マ	ネージメント	シート		作成	<del>;</del> □ ⊴	→和5 年 05	5日 10 F		
評価対象年度 令和4 年度 <b>予務争未 ペイーン</b> 事務事業名 農業用廃プラスチック適正処理事業												773 10 1		
政策		<del></del>		<u>~~</u> D活力アップ! ~										
施策	名	1 農業の振興					战略拡充事業)	□戦	新(総合戦	略新規事業)				
関連個別	引計画													
法令机	:= thn	農業田感プラフチ	い ク 適 正 切 理 車 業	毒油助全态付更级	3	事業	期間	─ 毎年度実	施(開始年度	R4	年度~)			
予算和		農業用廃プラスチック適正処理事業費補助金交付 1.一般会計 6.農林水産業費 1			<u> </u>	4		□ 期間限定	複数年度(	年	度~	年度)		
予算和		/32.241	0.1及图31至来吴	<del>\</del>		·								
予算和				1										
事業材	既要	流し、本市農業の振興及 補助額は、処理額の1/5.	なび農村環境を保全する	ることを目的に、補助3		ら排出される使用済み農業F もの。		. CW40.	<b>改采工</b> 座 只	14900000	/ 守の周正なた	£ C. JH		
		の部 (1) 事務事業の	目的と指標	La	江私七冊 /	古改古米の江私早もキナル	(抽) の世段							
年度実統		91)			④活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) の推移 名称 単位 ┃31 年度(実績) ┃2 年度(実績) ┃3 年度(実績) ┃4 年度(実績) ┃4 年度(実績) ┃ 4 年度(実績) ┃ 4 年度(実績) ┃ 5 年度(実績) 日							5 年度(見込		
補助金交付事務 ・農業用廃プラスチック適正処理支援事業 事業主体: 園芸特産連絡協議会 (JAはが野事務局) 農業用補助額 : 4,312,742円 受益農家: 計659名(真岡地区388名、二宮地区271名)						: ア 農業用廃プラスチック適正処理事業補助金					4,313	6,000		
文교辰	₹ØN . Ē∏0	vv □(共岡地区300台、-	- 白地区411百)	1										
	_			,										
年度計画 1年度同					2									
				I										
				ļ										
				, t										
対象(		を対象にしているのか)。	《人や自然資源等	(5)	③対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移 名称 単位 31 年度(実績) 2 年度(実績) 3 年度(実績) 4 年度(実績) 5 年度(見減)									
·ry辰耒	· 🖽				**	農家数(センサス)						,		
					: 中内販売店	Resh女( ピノリ人 )		A	2,257	-	-			
				1										
				<del>ن</del> 										
					-									
				<b>1</b>										
		によって、対象をどう3 5mのリサイクリ第の流		6	成果指標(	対象における意図された対 名称			1) 2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(見込		
₹未土性	- 貝彻 焼き	<b>養物のリサイクル等の適</b> 〕	L.ゆが任何批准	7	<b>士恒</b> + 四·				10000					
					支援を受	アに辰豕奴		<u></u>			659	800		
					グ			·ン			300.1	350.0		
				<b>4</b>										
総事	業費の	推移	単位	31 年度(実績	1)	2 年度(実績)	3 年	度(実績)	4 年度	(実績)	5 年月	(見込)		
事業		国庫支出金	千円		0	0		0		0		0		
		県支出金	千円		0	0		0		0		0		
	€ │ 源	地方債			0	0		0		0		0		
業費	内.	その他	千円		0	0		0		0		6,000		
	'	一般財源	千円		0	0		0		4,313		0		
事業費計(A)					0 0			0						
					ا م	_		_		4,313		6,000		

(2)総事業費の推移				31 年度(到	実績)	2 年度(実績)	3 年月	度(実績)	4 年度	度(実績)	5 年	度(見込)	
業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0		0	0		0		0		
		県支出金	千円	0		0	0		0		0		
		地方債	千円	0		0	0		0		0		
		その他	千円	0		0	0		0		6,000		
		一般財源	千円	0		0		0		4,313		0	
事業費計(A)					0	0		0		4,313		6,000	
	事業	事業費	国庫支出金 県支出金 財 源 地方債 内 :: その他 一般財源	事業費     財源内     地方債     千円       中の記     その他     千円       一般財源     千円	事業費     地方債     千円       サ源内内     ・十円       その他     ・千円       一般財源     ・千円	事業費     財源     地方債     千円     0       小部     地方債     千円     0       一般財源     千円     0       一般財源     千円     0	事業費の推移     単位     31 年度(実績)     2 年度(実績)       事業費     国庫支出金     千円     0     0       県支出金     千円     0     0       財源内内訳     地方債     千円     0     0       一般財源     千円     0     0       一般財源     千円     0     0	事業費の推移     単位     31 年度(実績)     2 年度(実績)     3 年度       事業費費     国庫支出金     千円     0 0     0       県支出金     千円     0 0     0       サ源の内部     地方債     千円     0 0     0       一般財源     千円     0 0     0       一般財源     千円     0 0     0	事業費の推移     単位     31 年度(実績)     2 年度(実績)     3 年度(実績)       国庫支出金     千円     0     0     0       県支出金     千円     0     0     0       財源内内部     地方債     千円     0     0     0       一般財源     千円     0     0     0       0     0     0     0     0       0     0     0     0     0	ま業費の推移	事業費の推移     単位     31 年度(実績)     2 年度(実績)     3 年度(実績)     4 年度(実績)       財が原内に対する     千円     0     0     0     0       サが原内に対する     千円     0     0     0     0       ・日のとのできます。     ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	事業費の推移     単位     31 年度(実績)     2 年度(実績)     3 年度(実績)     4 年度(実績)     5 年)       事業費 内内	

## \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価 2. 1 次評価の部 ①政策体系との整合性 □ 見直し余地はない □ 見直し余地がある 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か? (評価理由) 農業生産資材廃棄物のリサイクル等の適正な処理を推進することにより、本市農業の振興及び農村環境を保全に つながることから、市の政策に結び付く。 目的妥当性評価 ②公共関与の妥当性 □ 見直し余地はない □ 見直し余地がある 市が事業に関与する必要があるか? (評価理由) 農業生産資材廃棄物のリサイクルの適正な処理を通して、農村環境の保全につながることから、公的関与は妥 当である。 ③対象と意図の妥当性 □ 対象・意図を見直す必要はない ■ 対象を見直す必要がある ■ 意図を見直す必要がある ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か? (評価理由) ・対象を限定・追加する必要があるか? JAはが野の適正処理事業を通じた農業者支援により、環境保全につながることから、適切である。 ・意図を限定・追加する必要があるか? ④成果の向上余地 □ 向上余地はない □ 向上余地がある ・成果を向上させる余地はあるかどうか?ない場合の理由は適切か? (評価理由) ........ 農業団体であるJAはが野を通じた事業を支援することにより、環境保全につながることから成果を向上させる 余地はない。 ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか? ⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ■ 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名: ・類似事業はないか、統合や連携はできないか? ■ 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名: ■ 類似事業はない (評価理由) ⑥事業費の削減余地 □ 削減余地がない □ 削減余地がある ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか? (評価理由) ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか? 農業団体であるJAはが野を通じた事業を支援することにより、効率的な支援につながることから、事業費の削減 余地はない。 3. 改革・改善方向の部 (1) 改革の方向性(改革案・実行計画) (3) 改革・改善による期待成果 □ 廃止 □ 見直し(□:目的妥当性 □:有効性 □:効率性) □ 統合 □ 継続 維持 増加 削減 向上 成果 維持 (2) 課題、課題の克服の方向性 低下 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性) □ 記述説明不足(説明責任不充分) □ 評価内容が客観性を欠く □ 評価内容は客観的と言える (1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 (2) 2 次評価者としての評価結果 (5) 改革・改善による期待成果 ①目的妥当性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり ②有効性 🗌 適切 🔲 見直し余地あり □ 適切 □ 見直し余地あり 維持 増加 削減 (3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 (4) その他 2 次評価会議で指摘された事項 向上 □ 廃止 □ 休止 □ 目的絞込み □ 目的拡充 成果 維持 □ 事業統廃合 □ 事業のやり方改善 低下 □ 予算削減 □ 予算増大 □ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)